



会社名 J. フロント リテイリング株式会社
 コード番号 3086
 代表者名 代表執行役社長 好本 達也
 お問合せ先 財務戦略統括部 I R推進部
 TEL 03-6865-7621

2022年8月度 J. フロント リテイリング 連結売上収益報告 (IFRS)

1. セグメント別売上収益 (売上高) (対前年増減率: %)

	売上収益(IFRS)		(参考)総額売上高	
	8月度	3-8月累計	8月度	3-8月累計
百貨店事業	19.7	17.6	27.4 (29.6)	23.3 (24.8)
SC事業	17.1	▲0.9	23.4	14.9
デベロッパー事業	▲35.3	▲10.2	▲35.3	▲10.2
決済・金融事業	17.1	27.5	17.1	27.5
その他	▲8.4	▲11.6	▲12.5	▲12.5
連結合計	2.1	7.5	17.2	16.8

※注) 1. 当社は2017年3月から国際会計基準(IFRS)を任意適用しています。
 2. 総額売上高はIFRS売上収益のうち「百貨店事業」の消化仕入取引を総額に、「SC事業(パルコSC)」の純額取引をテナント取扱高(総額ベース)に置き換えて算出しています。
 3. 各セグメントの対前年増減率は、それぞれを構成する事業会社の単純合算により算出しており、セグメント内消去を含みません。
 4. 松坂屋豊田店は、2021年9月末日をもって営業を終了しました。百貨店事業の()内は、松坂屋豊田店の値を控除した増減率を示しております。
 5. 当社は、2021年6月30日付で㈱ヌーヴ・エイの全株式を譲渡しました。
 6. (株)大丸松坂屋百貨店は、2021年9月1日付で(株)大丸松坂屋セールスアソシエイツを吸収合併しました。
 7. 当社は、2022年2月28日付で㈱ディンプルの株式の90%を譲渡し、連結の範囲から除外しました。

2. 事業別の概況

1) 百貨店事業

- 8月度の売上高は、前年同時期に新型コロナウイルス感染症の拡大により、東京、大阪などで緊急事態宣言が発出されていたことによる反動増に加え、ラグジュアリーブランド、宝飾品などの好調持続により、大丸松坂屋百貨店合計(既存店)では対前年30.1%増、関係百貨店を含めた百貨店事業合計(既存店)では同29.6%増となった。
- 店舗別では、大丸神戸店が2019年実績も上回った。
- 大丸松坂屋百貨店合計の免税売上高は対前年485.3%増(客数同395.7%増、客単価同18.1%増)となった。大丸松坂屋百貨店の国内売上高(免税売上の本年・前年実績を除く)は対前年26.5%増であった。
- なお大丸松坂屋百貨店の9月度の既存店売上(法人・本社等を除く)は、昨年全国主要都市で緊急事態宣言が継続していたことによる反動増に加え、ラグジュアリーブランドの好調継続などにより、14日までの累計で、対前年30%増(対2019年▲23%減、対2018年▲11%減)、国内売上高は同26%増(対2019年▲18%減、対2018年▲5%減)で推移している。また免税売上高は対前年583%増(対2019年▲72%減、対2018年▲64%減)で推移している。

2) SC事業

- 8月度のパルコ店舗テナント取扱高は、昨年が緊急事態宣言期間であった反動と、帰省をはじめ休日消費の大幅な回復に加え、映画館やライブハウス、ビアガーデンなどの人が集まる場への需要の高まりもけん引し、全店舗計で前年を上回った。

3) デベロッパー事業、決済・金融事業、その他

- デベロッパー事業は、J. フロント建装が、前年の大口受注の反動減により大幅減収となったほか、パルコスペースシステムズも減収となり、トータルでも減収となった。
- 決済・金融事業のJFRカードは、グループ内の百貨店の増収や、年会費受入れの増加を主因として、増収となった。
- その他は、卸売業の大丸興業が、電子デバイスの不調を自動車部品、産業資材がカバーし増収となったものの、(株)ディンプルを連結範囲から除外した影響が大きく、トータルでは減収となった。

【お問合せ先】 J. フロント リテイリング株式会社
 ・ I R推進部 TEL 03-6865-7621
 ・ グループ広報推進部 TEL 03-6865-7616

2022年8月度 百貨店事業 営業報告(日本基準)

1. 売上高および入店客数 (対前年増減率：%)

	8月度		3-8月累計	
	売上高	入店客数	売上高	入店客数
大丸 心齋橋店	51.9	42.0	41.6	42.6
大丸 梅田店	20.9	35.9	23.3	31.8
大丸 東京店	45.9	77.7	41.6	60.1
大丸 京都店	22.2	24.3	18.7	24.0
大丸 神戸店	26.2	25.2	33.4	25.5
大丸 須磨店	▲4.9	9.5	▲5.9	10.7
大丸 芦屋店	▲1.6	3.3	2.0	7.8
大丸 札幌店	36.4	42.6	31.0	33.8
大丸 下関店	6.4	2.3	▲2.0	▲1.3
松坂屋 名古屋店	25.8	13.4	15.0	10.6
松坂屋 上野店	32.9	40.4	20.4	33.2
松坂屋 静岡店	24.9	39.1	10.8	25.3
松坂屋 高槻店	0.9	15.6	11.8	32.3
店 計	27.2	31.2	23.2	27.8
既存店計	29.7	33.9	25.0	30.1
法人・本社等	34.7	-	38.9	-
大丸松坂屋百貨店合計	27.6	31.2	24.0	27.8
うち商品売上高	28.6	-	24.3	-
うち不動産賃貸収入	7.1	-	16.3	-
既存店計	30.1	33.9	25.7	30.1
博多大丸	27.4	43.2	18.5	29.5
高知大丸	11.3	27.9	2.7	14.5
百貨店事業合計	27.4	31.8	23.3	27.7
既存店計	29.6	34.4	24.8	29.9

※注) 1. 松坂屋豊田店は、2021年9月末日をもって営業を終了しました。
2. 既存店計には、松坂屋豊田店の前年実績値を含みません。

2. 大丸松坂屋百貨店 商品別売上高 (対前年増減率：%)

	全店計	
	8月度	3-8月累計
紳士服・洋品	14.6	21.7
婦人服・洋品	43.5	39.1
子供服・洋品	11.8	6.0
その他の衣料品	25.7	20.9
衣料品計	39.0	35.3
身 回 品	29.5	29.9
化粧品	16.4	15.7
美術・宝飾・貴金属	37.3	27.7
その他雑貨	11.9	14.1
雑 貨 計	27.0	21.7
家具	19.5	12.7
家電	6.8	4.2
その他の家庭用品	▲5.4	▲2.4
家庭用品計	0.7	1.1
生 鮮	▲3.2	▲5.9
菓 子	27.1	19.1
惣 菜	7.5	9.8
その他食料品	12.0	2.3
食料品計	12.8	8.2
食堂・喫茶	60.0	56.8
サービス	27.7	35.5
そ の 他	29.6	17.4
合 計	28.6	24.3

3. 営業概況

- ・ 婦人服・洋品は、引き続きラグジュアリーブランドが大きく売上を伸ばして牽引したほか、8月下旬にはジャケット、ワンピースなど、秋物の動きが見られた。紳士服・洋品では、アウトドア用品が好調であった。雑貨では、名古屋店時計売場の改装効果継続などにより、宝飾品が大きく伸ばした。食料品は、3年ぶりに行動制限がないお盆休みとなったことで、帰省・旅行されるお客様のおみやげ需要が増え、菓子が大きく伸ばした。

2022年8月度 パルコ店舗 テナント取扱高報告

※「テナント取扱高」とは、パルコ店舗におけるテナント取扱高(売上)の合計値で、前年の値も同じ基準で集計いたしております。

1. 店舗別テナント取扱高(対前年増減率：%)

	8月度	3-8月累計
札幌PARCO	27.8	15.4
仙台PARCO	29.0	21.1
新所沢PARCO	▲5.0	▲6.2
浦和PARCO	14.2	8.5
池袋PARCO	32.0	34.7
PARCO_ya上野	37.8	40.9
ひばりが丘PARCO	19.3	15.8
吉祥寺PARCO	30.9	22.1
渋谷PARCO	24.8	38.4
錦糸町PARCO	33.6	30.8
調布PARCO	25.5	20.2
津田沼PARCO	4.3	▲3.7
松本PARCO	27.3	▲1.1
静岡PARCO	20.6	3.9
名古屋PARCO	11.5	15.5
心斎橋PARCO	32.5	30.9
広島PARCO	20.2	15.0
福岡PARCO	35.3	12.4
全店計	22.5	17.8

2. アイテム別テナント取扱高(対前年増減率：%)

	全店計	
	8月度	3-8月累計
衣料品	22.7	16.6
身回品	18.4	16.9
雑貨	20.5	15.6
食品	8.4	5.7
飲食	56.4	43.8
その他	18.4	17.1
合計	22.5	17.8

3. 営業概況

- ・ 8月は、昨年が緊急事態宣言期間であった反動と、帰省をはじめ休日消費の大幅な回復に加え、映画館やライブハウス、ビアガーデンなどの人が集まる場への需要の高まりもけん引し、全店舗計で前年を上回った。
- ・ アイテム別では、全アイテムで前年を上回り、衣料品と身回品の好調、飲食の一層の回復が顕著だった。雑貨は、アニメ・ゲーム系コンテンツのショップがヒットアイテムに恵まれ、また、キャラクターグッズのイベントやポップアップショップの多数開催が奏功し伸長した。